

(1) 規格は守るべきもの

久しぶりの市場調査でした。卸売場での商品も産地名もそれぞれが「おらが村の代表」を競い合っている光景をみると、野菜も果物も活着ているなど実感させられます。全国各地から集まっている中でわが県産品も居場所をえているやに見受けられました。出荷の本格化してきたアスパラやニラ、蔵王サファイアなどが他県産と肩を並べたり、出荷終了の間近かな軟白ネギも頑張っているよと多士済々とでもいうところでしょうか。せり人や仲買人たちも略々好意的な受け止めをしてくれており、夏秋期に向けた期待が感じられました。

といいながらも、個々の商材には厳しい評価を受けざるをえない部分もまたありますね。彼らが最も嫌う選別選果のムラが多くみられることです。大きさや色廻りの不揃い、そして収穫遅れなど、判らない筈がないとさえ酷評されてもやむをえないと思う場面がみられます。「どうしてこの1ヶ・2ヶを入れてしまうの？」といわざるをえないものが、正々堂々と真ん中に鎮座しているのを見せ付けられれば、買う気になれという方が無理だと言わざるをえなくなります。折角、手塩にかけた生産物です。より高く買って欲しいと思うのは当然ではないでしょうか。ならば、売る為の約束事は守らなければならないと思います。

収穫された生産物は、それ以降は農産物ではなく商品として活着て行きます。その為の所作が選別選果であり、荷造包装の作業ですよね。そして、作業がし易く商品価値をより高めるべく、出荷基準として品目ごとに品質や大きさに係わる規格が決められている筈です。しかも、作る側の産地だけでなく売る側・消費地にも公表されて抛り所とさえなっています。それ故に規格に合わないモノの混入などを煩さく指摘もしてくれます。確かに天候条件などによる豊凶もあり、一樣に行かないのが園芸作物です。しかし、商品として安心して売り買いする為には、出始めから最後まで範囲内で安定した品であれと言わざるをえません。産地の都合で規格を守らない、破ることは大いに非難されることになるでしょう。

(鈴木 重雄 筆)